

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
266	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Dissociation between the locomotor and anxiolytic effects of acetaldehyde in the elevated plus-maze: evidence that acetaldehyde is not involved in the anxiolytic effects of ethanol in mice.</p> <p>高架式十字迷路でのアセトアルデヒドによる運動や抗不安への影響の分離: マウスにおいてアセトアルデヒドはエタノールの抗不安効果とは関係がないことの証拠</p>	
執筆者	
Tambour S, Didone V, Tirelli E, Quertemont E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur Neuropsychopharmacol. 2005 Dec;15(6):655-62.	
キーワード	
アセトアルデヒド、高架式十字迷路、抗不安、運動、アルコール	
要旨	
<p>エタノールは行動へ多くの影響をもたらすが、エタノール代謝の第一産物であるアセトアルデヒドがこのことに重要な役割を果たしていることが示唆されている。しかしながら、直接的な急性アセトアルデヒド投与の行動への影響はほとんど研究されていない。特に、エタノールによる抗不安効果におけるアセトアルデヒドの影響については研究がない。本研究の目的は高架式十字迷路を用い、マウスの2系統、C57BL/6JとCD1でアセトアルデヒドの抗不安効果への影響を調べることである。急性的なエタノール投与(1-2g/kg)では両系統において顕著な濃度依存的な抗不安効果が認められた。一方、アセトアルデヒドは抗不安効果を誘導しなかったが、運動量の抑制が高濃度で観察された。アセトアルデヒド脱水素酵素阻害剤であるシアナミドによってアセトアルデヒドの分解を抑制した場合、エタノールによる運動刺激効果を抑制したが、抗不安効果には影響が見られなかった。以上より、本研究によってアセトアルデヒドはエタノールによって誘導される抗不安効果には影響を及ぼさないが、鎮静効果や運動抑制効果に関与することが示唆された。</p>	